

地震の揺れの体験装置を開発・公開

●大学院環境学研究科

環境学研究科の地震工学・防災グループは、8月11日(月)、開発を進めてきた統合型地震応答体験環境「BiCURI(ビックリ)」をマスメディアに公開しました。

東海・東南海地震などの地震災害に備えて、住民が建物の耐震化や室内の安全性向上を行い、さらに地震時の対処行動を確認することは大変重要ですが、そのためには、自



公開デモの様子

宅や職場などが大地震でどのような揺れ方をするのか、実感・納得することが有効です。同グループではこれまでに、「地域防災力向上シミュレータ」や、耐震化の重要性を伝える各種の振動教材を開発してきました。同装置はそれらを統合し、実際の揺れや室内状況を体感できるようにしたものです。

同装置の水平2次元振動台は、人間が搭乗して実際の地震の揺れを体感できるものです。従来の大型振動台を上回る3m×1mのストロークをもち、建物の上階の大きな揺れも再現できます。体験メニューとして、兵庫県南部地震や新潟県中越地震などの最近の主要な地震や、将来の東海・東南海連動の地震について、地面や建物の揺れが準備されています。また正面の映像は振動台の2次元の揺れに合わせて左右・前後に動き、室内の家具転倒の様子や窓外の景色などが映し出されます。

この装置は環境総合館4階の地域防災交流ホールに設置されており、地域の防災力向上のための活動に利用される予定です。詳細は以下のウェブページをご覧ください。

<http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/BiCURI/aboutBiCURI.html>

第42回客員教授セミナー「FDマップの開発とその活用方法」を開催

●高等教育研究センター

高等教育研究センターは、7月31日(木)、第42回客員教授セミナーを、文系総合館において開催しました。

このセミナーは、高等教育研究の第一線で活躍する方々を客員教授として招へいして行われているもので、今回は、佐藤浩章愛媛大学准教授を迎えて、「FDマップの開発とその活用方法」をテーマに実施されました。



セミナーの様子

FD(ファカルティ・ディベロップメント)の実施が法制的義務化されたことを受け、各大学では多様な内容のFDが実施されています。セミナーでは、同准教授らが開発したFDマップについて、詳しい説明がありました。全国の11大学のFDプログラムを、その対象からマイクロ(教員を対象とした授業改善)・ミドル(学部長、教務委員を対象としたカリキュラム改善)・マクロ(管理職を対象とした組織改善)の3つに分類し、さらに、フェーズ別(I:導入、II:基礎、III:応用、IV:指導)に段階づけました。各セルには、目標、方法、評価方法が記されています。これにより、当該組織がFDを通して、何を目標としているのか、その目標達成のために相応しい方法は何か、また、強化すべき活動が何かをチェックできるというものです。

参加者からは、「FDマップは能力開発にも使うことが出来るが、人事評価に活用される可能性がないか」、「自己点検評価になり、動的な活用が可能ではないか」等の意見が出され、活発な議論が交わされました。

同センターでは、ほぼ毎月、高等教育研究関連のセミナーを実施しており、詳細は、同センターホームページ <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp> でご覧になれます。